

2013年8月23日

株式会社エコクリーン江別  
代表取締役 上妻政敏 殿

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会  
委員長 押谷



### 評価報告書

日頃より江別市の廃棄物処理の中核を担う貴社の事業運営に対して江別市民を代表して感謝申し上げます。

さて、7月17日に第6回環境クリーンセンター等運営事業評価委員会を開催し、貴職ならびに貴社担当者より平成24(2012)年度の事業内容について説明を受けるとともに施設内を視察いたしました。

それらをもとに評価委員全員で貴社の事業に対する評価について協議を行い、総合的に評価した結果、下記の通り平成24年度における貴社の運営事業については、特段の問題はなく適正であると全員一致で評価いたしましたので、ご報告いたします。

環境クリーンセンターは、平成14年11月の竣工以来、10年を経過しており、経年的な劣化がみられる時期に入っていることから運転管理においては、従来にも増して慎重な対応が求められます。

とりわけ、何らかの事由により二系統ある処理システムが稼働できなくなる可能性や、近年全国各地で発生しているような自然災害などにより処理を要する廃棄物の発生量が増加することも十分に考えられることから常に余裕をもって運転管理を行うよう留意してください。

貴社が江別市より長期包括的運営管理について委託を受けてから6年目を迎えました。この間、重大な事故やトラブルが発生していないとはいえ、貴重な税金によって建設された市民の財産であることを踏まえ、常に慎重かつ適正に運転・管理していただくことが必要です。平成24年度においては、重大な事故には至るようなトラブルは発生していませんが、今後ともトラブルの発生を未然に防止する取り組みを続けるように強く求めます。

貴社の事業は、株式会社組織とはいえ利益の追求だけではなく、社会的な責任と公益性をもつ事業であることを貴職はじめ従業員一同ならびに関係会社も含めて十分に認識し、健全な経営かつ環境面においては安心安全の配慮を重視した事業の展開を行っていただくよう要望いたします。

### 記

評価結果：平成24年度の環境クリーンセンター等運営事業について、下記事項について評価を実施いたしました。特段の問題はなく、総合的に適正であると評価します。

- |      |                    |
|------|--------------------|
| 評価事項 | 1. 運転・維持管理について     |
|      | 2. 環境保全について        |
|      | 3. 事業経営について        |
|      | 4. 環境整備および地域貢献について |

(別紙)

環境クリーンセンター等運営事業評価委員会

委員等名簿

(敬称略)

	氏名	団体等
委員長	押谷 一	酪農学園大学
副委員長	星 優子	日本リサイクルネットワーク・えべつ
委員	辻 富美子	江別消費者協会
委員	池田 太郎	八幡自治会
委員	森木 潤一	江別建設業協会
オブザーバー	崎山 芳行	三井造船㈱
オブザーバー	佐藤 厚彦	クボタ環境サービス㈱

## I. 説明・視察の概要

### 1. 運転・維持管理について

江別市の要求水準書に定められた業務を適正に実施するための組織について平成24年7月20日現在の「江別市環境クリーンセンター運転維持管理に係る組織体制」にもとづいて説明を受けた。

それによれば、上妻政敏代表取締役以下、廃棄物処理施設の技術管理者、ボイラータービン主任技術者、防火管理者など法令で定められ運転維持管理のために必要とされる有資格者が適正に配置されていること、職制によって異なるものの勤務時間等について適正であることを確認した。

#### (1) ごみ搬入量

平成24年度は、昨年度に比べ直接埋め立てごみが増加しているものの、全体ではほぼ横ばいで推移している。埋め立てごみが増加したのは市内で発生した火災によるものであるとの説明を受けた。

#### (2) 焼却施設の運転状況

##### ① 可燃ごみ処理

可燃ごみの処理量については、前年比で微減（約4%）となっている。

##### ② 資源化物量、最終処分量

資源化物については、前年比およそ9%減、最終処分量はおよそ3%減となっている。

#### (3) 破碎施設の運転状況

##### ① 不燃・粗大ごみ処理

処理量は、前年比では、ほぼ横ばいである。

##### ② 資源化物量、焼却・埋立量

資源化物量は、前年比で42%増となっているが、これは不燃ごみのなかの金属類が増えていることによるものであるとの説明を受けた。なお、不燃・粗大ごみとして搬入されたごみのおよそ70%程度は破碎処理後、焼却処理されているとの説明を受けた。

#### (4) 新最終処分場（現在、運用中の処分場）

##### ① 埋立処分量

前年度に比べて埋立量は、飛散防止のための覆土が少なくなったことにより22%減少している。覆土量が減ったことにより飛散しないかとの委員からの質問に対しては、問題ないとの回答があった。

##### ② 浸出水原水、放流水の水質

要求水準書にもとづいて水質測定を実施していることについて説明があった。浸出水は処理施設で環境基準を達成するように処理された後、放流されている。汚染度を示すBOD（生物学的酸素要求量）、SS（浮遊物質）、Ca<sup>++</sup>（カルシウム）などの、処理後の放流水の水質については、すべて基準値内であることの説明を受けた。

なお、基準内とはいえ、原水の水質が計測日によって変動していることについて、オブザーバーとして出席しているクボタ環境サービス株式会社の佐藤厚彦氏に説明をもとめたところ、天候状況などによって変動することがあるので問題はないとの説明があった。

以上のように搬入される可燃ごみ、不燃・粗大ごみの搬入、焼却処理、資源化物の回収状況、最終処分（埋立）量、ならびに浸出水の処理については、問題がないことを確認した。

続いて24年度において発生した不具合の発生状況について説明があった。担当者により二つの事案について報告があった。

一点目は、熱分解ドラムに送る空気を高温に加熱する加熱器の耐火層が浮き上がっている事案であり、このことは、目視によって発見したものであるとのことであった。加熱器のなかには、腐食性のガスがあるため腐食に強いステンレス製のYアンカーと呼ばれる部分が耐火層を支えているが、そこが破損したとのことであった。耐火層が浮き上がることによって運転上の効率が悪化することから、運転を停止し、補修工事が行われたとの説明があった。

委員より、この事案が放置された場合、火災の発生や、ガスが外部に漏出するおそれがないかとの質問があった。これに対してオブザーバーとして出席した三井造船株式会社の崎山芳行氏より、直接、運転上に支障が生じることは無く、また火災など何らかの重大な事故につながることはない、加熱器内部は負圧となっているのでガスが外部に漏出するおそれはないとの説明があった。また、Yアンカー自体が腐食性ガスによって破損することについては、腐食しないようにステンレス製ではあるが長年、使用していれば、腐食することもあり、目視によって状況を常に監視し、異常が発生しないようにすることが必要であるとの説明があった。

二点目は、機器運転システム部分（アナログモジュール、電子部品）が動いていないことが、中央制御室の運転上の監視によって発見されたものである。不具合が生じたことにより、手動で運転を停止するとともに予備品と交換し、速やかに回復したとのことであった。このことについて崎山氏より、竣工後10年を経過した機械装置であり、経年劣化によって同様な事故が発生するおそれがあるが、メーカーにも予備品の在庫がなくなるおそれがあり、そうなると大規模な改修が必要となるので、これらの部品は消耗品であると考え、いまのうちから在庫しておくことが望ましいとの指摘があった。

このほか、消防に通報しなければならないような重大な事故は発生していないこと、労災事故なども発生していないことの説明があった。

なお、一点目の耐火層の修復にあたって、運転停止が7日に及んだが、廃棄物の処理に支障はなかったのかという委員からの質問に対し、問題はなかったとの回答であったが、運転状況の報告の表には、運転停止期間が記載されていないことに対して、運転停止期間と理由を加筆修正するべきであると意見があった。

## 2. 環境保全について

環境保全業務については、測定、分析すべき項目、頻度などは要求水準書に記載されている要件について、定期分析計画、分析結果を示しながらすべて問題なく事業を実施していることの説明があった。

昨年度までの委員会でも説明を受けたが、本施設においては、国の基準を遵守することはもとより、それより厳しい基準値を定めた江別市（役所）独自に環境基準値を設定しているものもあるが、すべての項目において基準値をクリアしていることの説明があった。

ダイオキシン類測定結果では、大気、土壌、水質、環境クリーンセンターからの排ガスの測定結果はいずれも基準値を大きく下回っており問題はないことを確認した。

しかしながら、基準値を下回っているが場外の土壌のダイオキシン濃度が昨年より高いところがあるが、極端に上昇しているわけではないので推移を注意深く監視するとの説明があった。これに対して、

毎回、指摘していることであるが、現状では問題ないとはいえ、施設周辺は、農作物を栽培している農家もあることから、十分に測定を行い、万が一にも基準値を超えることのないように配慮するようとの意見があった。

作業環境においては、破碎施設の騒音が依然として高いが、抜本的な改善は難しいが、作業者に対しては、耳栓などを使用するよう指導しているところである旨の説明があった。

### 3. 事業経営について

収支決算など経営にかかわることについては、取締役会、株主総会が責任をもつべきことであり本委員会では、江別市との契約を交わすことのできる事業主体として適当であるかという視点から評価を行うこととしている。

本年は6月21日に株主総会が行われ、そこにおいて事業報告ならびに第6期決算が承認されている旨の説明があった。それによれば当期の純利益は、前期に比べて2,471千円増の11,851千円となっている。原油高騰による灯油価格の上昇が高止まりしたが、売上原価や管理経費の節減により計画収益を確保し、繰越利益剰余金は、71,685千円となっている。全体では黒字決算となっているが、株主への配当等は、江別市との包括協定が満了した時点まで行われたいとの説明があった。

さらに貸借対照表による資産などの説明、支出状況、各種保険の加入状況などについて説明を受けた。これらについては、昨年度と変更はなく特段の問題はみられない。

なお、費用のうち工事請負費等、江別市内の業者に支払われた分（市内調達率）は、21.7%となっている旨の説明があったが、委員より可能な限り市内調達率を上げるよう今後とも引き続いて努力するようとの指摘があった。これに対して、特殊業務や資材もあり難しい面もあるが努力していきたいとの回答があった。

### 4. 環境整備および地域貢献について

地域との連携を強化するとともに、地域貢献のための事業についても積極的に取り組んでいる旨の説明を受けた。周辺環境の整備のために、周辺の清掃活動や緑化のための施設周辺の植林にも積極的に参加している旨の説明を受けた。江別市の「子育て支援事業」にも協賛、寄付を行っている。また、平成24年10月13日には小学生親子を対象にした「環境フェア★イン八幡」を開催し、30組91名の参加によりイベントを通じたごみ問題への啓発などにも取り組んでいることの説明を受けた。また、環境クリーンセンターの見学は市内の小学校4年生をはじめ1,034名であった旨の説明があった。

### 5. その他

以上のとおり、㈱エコクリーン江別より、事業内容について説明を受け、適宜、質疑応答を行った。

続いて、事業内容以外のことについても総括的な質問や意見を求めた。そのなかで、本施設は、石狩川河口に近い低地にあることから、洪水対策に留意するようとの意見があった。これは集中豪雨などによって河川の水位が上昇した際に、石狩川への水門が閉鎖され、ポンプにより排水することになっているが、想定以上の水量の場合、水が溢れることも懸念されるので、その対策も検討すべきであるとの意見があり、あらゆる災害についても今後、検討していくとの回答があった。洪水が発生した場合、施設の上層階を周辺住民に開放することはあり得るとのことであった。また、冬季に降雪により社員が通勤することができず、孤立することを想定した非常食などの用意があることも報告された。

最後に三井造船株式会社、クボタ環境サービス株式会社より評価委員会にオブザーバーとして陪席を

願い、適宜、技術的な点についてアドバイスをいただいた2名のオブザーバーより、総合的な意見をいただいた。それによれば本設備は、今のところ運転上の問題はないとの説明があった。

続いて上妻代表取締役以下の会社関係者およびオブザーバー、傍聴者の退席をもとめ、委員が総合的な視点から意見交換を行った結果、平成24年度の環境クリーンセンター等運営事業について、適正であると評価することとした。

## 6. 施設の視察

通常の見学ルートに沿って施設内を適宜説明を受けながら視察し、整備状況ならびに安全対策の状況について特段の問題はないことを確認した。

あわせて施設に隣接された、株式会社ノーザンフロンティアのメガソーラー設備の概要についても説明を受けた。

## II. 総括

以上のように環境クリーンセンター等運営事業評価委員会では、平成24年度事業の評価のため、平成25年7月17日に評価委員会を開催し、株式会社エコクリーン江別より事業内容の説明を受け、それに対する質疑応答を行った。

委員に対しては、事前に関係資料が送付されていたが、委員会の席において上妻政敏代表取締役ならびに担当社員より事業内容について詳細な説明があった。委員会にオブザーバーとして同席いただいた三井造船株式会社ならびにクボタ環境サービス株式会社の担当者からも適宜、技術的な内容について補足の説明を受けた。また、本施設が稼動開始後、10年経過しているなかでの課題等や設備の現状についてオブザーバーからも意見を述べていただいた。

評価事項の説明および質疑応答を終えた後、委員全員による評価を行い、さらに施設内を視察し、設備の状況を確認した結果、全員一致により(株)エコクリーン江別の平成24年度事業については、特段の問題はないと評価するとの結論に至った。

以上